

立正大学 一般選抜対策講座 国語

解を導くまで―手順と書き込み―

講師 國井 丈士(代々木ゼミナール)

【時短のための解く手順】

読解開始

← 傍線部出現

形式段落で読解中止

←

設問読解↓解のパターンをつかむ

←

本文に戻る

←

解いてマーク……魔の時間対策も忘れずに

←

読解に戻る

【問題用紙への書き込み方】

○試験中はケアレスミス・見直しなどを考慮して、問題用紙に書き込みをしておくとうい。

解答 1 ② 2 ① 3 ① 4 ① 5 ③ 6 ⑤ 7 ③

一 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

立正大学 令和七年度一般選抜入試問題 2月前期(全学部共通) より抜粋

茶碗^{ちわん}では、よく「手取り^{てど}り」ということばを使う。わかったようでわからないことばのひとつだろう。説明は少しむずかしい。

あるとき、ある場所で、ある茶碗の話をしていて「手取りが意外に軽いものですよ」というと、そばで聞いていたひとりから「手取りってなんですか」と訊^きかれたことがある。「給料の手取りならわかるけど」とそのサラリーマン氏にいわれて「なるほど」と納得した。^(注1)『大辞泉』をひいてみると、たしかに「給与などから税金その他を差し引いた、正味の受取金。『A』」というのが第一義で、やきもの、とくに茶碗の鑑賞で使う「手取り」というのは出ていない。

やきものに関して「手取りが重い」とか「手取りが軽い」とかいうとき、それは文字どおり手に取ったときの感じ、とくに重量に関わる表現である。しかし、たんなる重量をいうなら、ただ「重い」「軽い」ですむ。わざわざ「手取り」というのは、それが視覚と結びついた相対的な重量感覚の表現だからである。ということばが使われるとき、話し手には、手に取るうとする器に対して、意識的にせよ無意識的にせよ、重量の予測があるということにはかならない。そして、その予測は経験に裏打ちされた視覚を通じてもたらされるものであるが、同時に対象の器が手で持たれるものだという暗黙の前提がある。

一般的にごつごつした堅そうな形、暗色系の色彩、分厚い造りなどは、重そうな印象を与えることが多いであろう。逆にサクサクした表面や明るい色、薄い造りなどは軽さを予想させる。しかし白い器でも、^(注2)磁器質のものは陶器質や土器質のものに比べて重いということを経験的に知っている人は、^(注3)白磁の肌からある程度の重量に関する情報を引き出すにちがいない。こうして人は手に取る前に対象の重さを予測し、その予測にふさわしい力を手に込めて器物を持ち上げる。そのときの予測と実感の差の感覚が手取りの軽さであり、重さであるといえる。

手取りの感覚は、誰しももっているにちがいない。しかし、このような所作、感覚は仏像やミロのヴィーナスやピエタなどを鑑賞するときヒトの意識にのぼることはまずない。このことばが最も重視される機会は、おそらく茶碗を直に鑑賞するときである。^(注4)^(注5)茶碗が目の前に出されると、人はその茶碗の重量を無意識のうちに測っているのである。それは、茶碗は手に取るもの⁽³⁾だという多

くの日本人に染み込んだ行動様式と関係がある。茶碗が茶を喫む碗であつても飯茶碗であつても汁碗であつても、通常、日本人はそれを手に取つて、内容物を食べ、あるいは飲む。こうした器を下に置いたまま中身を摂取することは無作法とされる。

日本人にとって常識であるこの習慣はしかし、かならずしも世界的にふつうというわけではない。少し気取つた洋食の席では、飲み物以外は、容器を直接口につけるといふことはない。お隣の朝鮮半島でも器物に直接口をつける食べ方は「犬の食べ方」といって嫌われる。酒や水・茶の類以外のご飯、お菜の場合、器と口との間に距離が保たれていて、箸やスプーンによつて中身が口に運ばれるのがふつうである。

こういう食事作法がそれぞれの地域でいつ生じたのかというセン索はさておいて、とりあえず当面する話題でいえば、日本人にとつて碗は手に取るものである。とくに茶室では通常、畳の上から茶碗を取り上げなければならない。人は格別意識しなくても茶碗の重量を予測することになる。

持ち上げるのは木器でもシツ器でも同様である。しかし、それらの場合、視覚的な重量感が裏切られることはそれほど多くない。その点、やきものは素材により、成形により、削りにより、重量はさまざまで、個体としての器物における手取りの情報は、視覚を通じてもたらされる情報とともに、人と器を結ぶ無形の橋をなしている。

同じことが手触りにについてもいえ、指や掌^{てのひら}によつて対象を確認し、さらに唇で触れることによつて触覚を通じての認識が完了する。

(吉良文男『茶碗と日本人』問題作成上、一部を改変した)

問一 傍線部分(ア)～(ウ)と同じ漢字が使われているものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号は(ア) 1、

(イ) 2、(ウ) 3。

(ア) セン 索

① 敵の陣地をセン 抛する

② 所センかなわぬ恋だった

③ ガスの元センを閉める

④ 飛行機が上空でセン 回する

(イ) シッ 器

① シッ 黒の闇が広がる

② シッ 策を重ねてしまう

③ 上司のシッ 責を受ける

④ 重大なシッ 病を予防する

(ウ) 抱 ヨウ

① 選挙の候補者をヨウ 立する

② 面ヨウな技を使って戦う

③ 中ヨウな態度を保つ

④ 勇気ある行動を称ヨウする

⑤ 試合相手の動ヨウを誘う

問二 空欄Aに入る語句として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 4。

① 実 収入

② 副 収入

③ 給与 収入

④ 定期 収入

⑤ 現金 収入

✓ 問三 傍線部分(1)「相対的な」とあるが、ここで相対的に捉えられているものは何と何か。本文中の語句で示したものとして、

最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 5。

- ① 「重い」と「軽い」
- ② 「話し手」と「器物」
- ③ 「予測」と「実感」
- ④ 「意識」と「無意識」
- ⑤ 「暗黙の前提」と「対象の重さ」

✓ 問四 傍線部分(2)「経験」とあるが、器を手を取る経験と手取りの関係について述べたものとして、最も適当なものを一つ選び、

マークしなさい。解答番号は 6。

- ① 手取りは経験の少ない人でも持ちうる感覚だが、経験を積むほど、より意識的にその感覚を磨こうとするようになる
- ② 手取りは経験の少ない人にはない感覚で、十分な経験を通じて、器の色彩や造りの厚さから読み取れるようになる
- ③ 手取りは経験の少ない人にはない感覚で、経験が豊富でなければ、磁器の手取りは重いということがわからない
- ④ 手取りは経験の少ない人にはない感覚で、繰り返し経験を重ねなければ、手取りを感じ取る力が身につくことはない
- ⑤ 手取りは経験の少ない人でも持ちうる感覚だが、どのような経験を持つかに応じて、その感じ方に人による差がある

問五

傍線部分③「多くの日本人に染み込んだ行動様式」とあるが、本文の内容をもとに食事の際の行動様式を国ごとに比較して述べたものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 7。

① 西洋には、飲み物の器は口につけるが、それ以外の器は口につけないという作法がある。一方、日本や朝鮮半島には、飲み物以外でも碗は手に取って食事するという作法がある。

② 西洋には、飲み物の器も食べ物物の器も口につけないという作法がある。一方、日本や朝鮮半島には、飲み物の器も食べ物物の器も手に取って口につけるという作法がある。

③ 西洋や朝鮮半島には、飲み物の器は口につけるが、それ以外の器は口につけないという作法がある。一方、日本には、飲み物以外でも碗は手に取って食事するという作法がある。

④ 西洋や朝鮮半島には、飲み物の器も食べ物物の器も口につけないという作法がある。一方、日本には、飲み物の器も食べ物物の器も手に取って口につけるという作法がある。